



復原・修復後の検断屋敷

## 上戸沢町と 検断木村家の 歴史的背景

上戸沢の町は、近世、江戸時代を通じて「山中七ヶ宿」と並び、奥羽13名の大名が往来した、七ヶ所の宿駅の一つであり、木村家は代々その検断役を務めた家である。

上戸沢の町は、少数の仙台湾の惣領と、その他の多数の片倉家の不始組み、足輕組と併せて30戸前後の住人から構成され、これら三味一体となって伝馬、輸送の業務に当たってきた。

検断は、仙台湾においては町場に置かれ、伝馬をはじめ、宿駅関係の一切の仕事を担い、統括する重要な職務であった。また、上戸沢の町は、本格的な大名の宿泊する本陣は置かれなかったが、木村家は、本陣に準ずる宿泊、休憩所としての役割をもたせられていた。町の伝馬問屋の仕事も兼ねていた。居宅であると同時に検断、問屋の居宅であった。更に大名やその家来たちの宿泊、休息の場となり、その時の問札が多数残されている。

## 復原後の検断屋敷の家構

### 【修理の概要】

構造形式	木造、平屋建、直二層、寄棟造、茅葺
規模	客座敷部と居座敷部とから成り、梁間を異にする。
桁間	10.5間(19.544m)
梁間	客座敷部 5.0間(9.090m)
居座敷部	5.5間(9.938m)

この建物は、平成5年まで白石市小原の上戸沢に所在した旧検断屋敷、木村家の主屋を移築復原したものである。江戸時代、明治初年を通じて、二筆文書等を持つて、曲がり屋の形を示す時期もあったが、平成5年3月、宮城県指定直渡りある解体調査時点、即ち、直屋形式を基に、努めて古い形に復原・修復された。

## 利用案内

開館時間	午前9時から午後4時30分まで
休館日	12月1日から翌年2月28日まで
入館料	無料(検断屋敷も活用する場合は異なります)



検断屋敷  
材木岩公園  
林木岩風穴(水室)

## アクセス

東北自動車道白石ICから車で30分 東北本線白石駅から車で20分

宮城県白石市建設部都市整備課  
〒989-0292 白石市大手町1番1号  
TEL 0224-22-1325  
FAX 0224-22-1329

材木岩公園  
(検断屋敷・なごみ茶屋・いきいき直売所)  
TEL 0224-29-2760

小原地区活性化推進協議会



地域の歴史と  
先人の文化が蘇る  
宮城県指定有形文化財

敷屋断検沢上戸旧  
木村家  
住



材木岩公園内に  
移築復原された「検断屋敷」



移築前の旧検断屋敷

## 検断木村家の由緒

歴代木村家の屋敷を記した「先祖代功留」が残っている。木村家は、初代の地共備から10代の三郎共の明治維新まで、代々世襲して検断役を務めている。

代	名	生年	没年
初代	常吉	1101年(慶長7)	1170年(慶長24)
二代	常吉	1170年(慶長24)	1240年(慶長46)
三代	大助	1240年(慶長46)	1310年(慶長16)
四代	大助	1310年(慶長16)	1380年(慶長34)
五代	大助	1380年(慶長34)	1450年(慶長56)
六代	大助	1450年(慶長56)	1520年(慶長78)
七代	大助	1520年(慶長78)	1590年(慶長46)
八代	大助	1590年(慶長46)	1660年(慶長68)
九代	大助	1660年(慶長68)	1730年(慶長86)
十代	大助	1730年(慶長86)	1800年(慶長108)

1590年(慶長46)に、上戸沢の町に、常吉が、この屋敷を築いた。常吉は、この屋敷を、10代まで、世襲して、検断役を務めた。



上戸沢町並保存  
修景園

編纂: 江戸幕末頃  
白石市文化財調査報告書  
「上戸沢の町並」の編纂